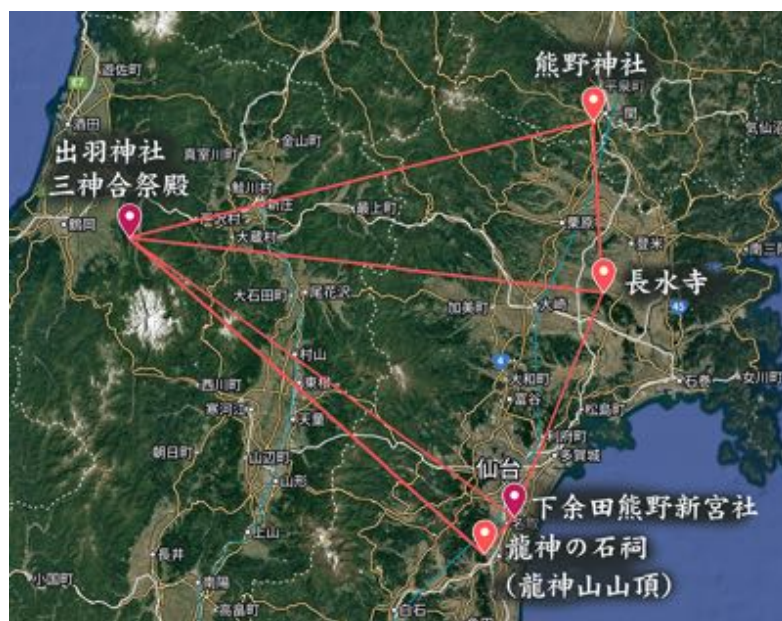


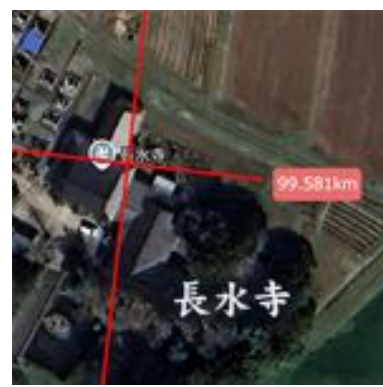
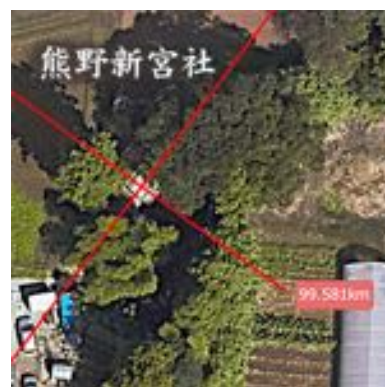
名取/下余田熊野新宮社

●名取熊野三社は、元々は下余田に三社とも勧請していたものを 1123 年に現在地に移したと伝わっているらしい。熊野新宮社だけは昔から現在地に祀られているようなので調べてみた。

出羽神社三神合祭殿（出羽三山神社）



■龍神の石祠 ←← 99.581km →→ 出羽三山神社 →→ 99.581km →→ 下余田熊野新宮社
→→ 99.581km →→ 熊野神社（一関）
→→ 99.581km →→ 長水寺



■出羽三山神社

欽明天皇 23 年（562 年）に崇峻天皇の第三皇子として誕生したと伝わる。崇峻天皇 5 年（592 年）11 月 3 日に、蜂子皇子の父である崇峻天皇が蘇我馬子により暗殺されたため、馬子から逃れるべく蜂子皇子は聖徳太子によって匿われ宮中を脱出して丹後国由良（現在の京都府宮津市由良）から海を船で北へと向った。そして、現在の山形県鶴岡市由良にたどり着いた時、八乙女浦にある舞台岩と呼ばれる岩の上で、八人の乙女が笛の音に合わせて神楽を舞っているのを見て、皇子はその美しさにひかれて、近くの海岸に上陸した。八乙女浦という地名は、その時の八人の乙女に由来する。蜂子皇子はこの後、海岸から三本足の鳥（ヤタガラスか？）に導かれて、羽黒山に登り羽黒権現を感得し、出羽三山を開いたと言われている。山形県鶴岡市羽黒町手向字羽黒山 33

■熊野新宮社（下余田）

名取市の下余田地区には、名取老女の墓と伝えられる場所がある。また、その近隣には、名取老女が現在の鎮座地に祀られる前に勧請したという説のある熊野新宮神社、熊野本宮神社、熊野那智神社の熊野三社が個人敷地内に現在も鎮座している。時代とともに都市化の波にさらされている。



■龍神の石祠（龍神山山頂）

龍神の道/龍神山山頂までの散策路。山桜が多く春を感じる穏やかなコースです。頂上に龍神の石祠があります。 岩沼市

※サイト「グリーンピア岩沼」より抜粋

※写真はグーグルレビュー K さんより拝借



■長水寺

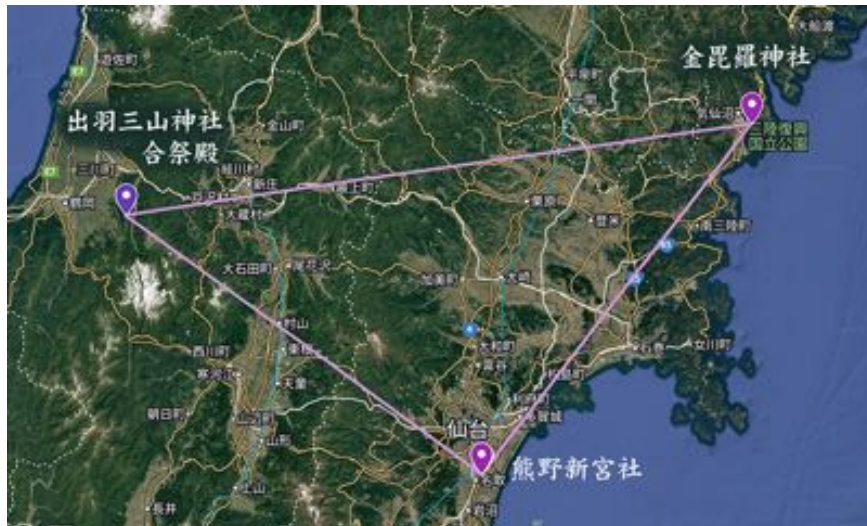
詳細不明 曹洞宗 宮城県大崎市田尻大貫長水寺浦 9 3

■熊野神社

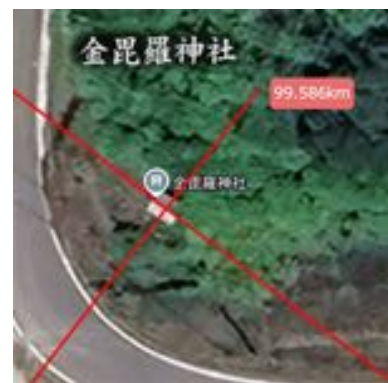
詳細不明 岩手県一関市萩荘境ノ神 2 7 2

●グーグルレビューを見ると小さな祠や石塔がたくさんあった。

●なにしろ 900 年前に高館山に移ってしまった本宮だから、どれも詳細不明で当たり前なのかも。



■ 出羽三山神社 ←← 99.586km →→ 下余田熊野新宮社 →→ 99.586km →→ 金毘羅神社



■ 金毘羅神社

詳細不明 宮城県気仙沼市二ノ浜 9 0 - 1

● Google マップで地上に降りて写真を見たら立派な社殿→



湯殿山神社



■ 下余田熊野新宮社 ←← 89.957km →→ 湯殿山神社 →→ 89.957km →→ 白山姫神社



■湯殿山神社

湯殿山は大同二年（807）四月八日弘法大師の開山で、湯殿山大権現と称し奉り、両部大日如来の鎮まる霊地です。両部大日如来は万物の父母と仰がれ、又往時は伊勢神宮の奥の院ともいわれ日本全国より尊ばれてきました。天然自然のお湯にひたる御宝前は登拝者の心をひきつけ、“言わずの山語らずの山”と言われ、湯殿山のご宝前のことは人に話してはならない、語らば聞くな、聞かば語るなという厳しい戒めがあるほどペールに包まれた秘境。現在も写真撮影禁止、参拝は土足厳禁で、俗世と隔離された仏神の領域である思いを深くします。祭神/大山祇命、大己貴命、少彦名命 山形県鶴岡市田麦俣六

●出羽三山について

月山・湯殿山・羽黒山を三権現あるいは三所権現ともいい、三山というようになるのは元亀・天正（1570-92）の頃からである。それ以前は羽黒山・月山・葉山を三山として、湯殿山は「総奥之院」としていた。出羽三山神社の社伝では崇峻天皇の皇子、蜂子皇子（能除太子）が開山したと伝えられております。崇峻天皇が蘇我氏に弑逆された時、蜂子皇子は推古元（593）難を逃れて出羽国に入りました。その時に、3本足の霊鳥の導きによって羽黒山に登り、苦行の末に羽黒権現の示現を拝し、さらに月山、湯殿山を開いて

3山の神を祀ったことに始まったと伝えられています。月山神社は『延喜式神名帳』に記載があり、名神大社とされている。出羽神社も、『神名帳』に記載のある「伊氏波神社」（いてはじんじゃ）のことであるとされ、古来より修験道（羽黒派修験など）の道場として崇敬されました。

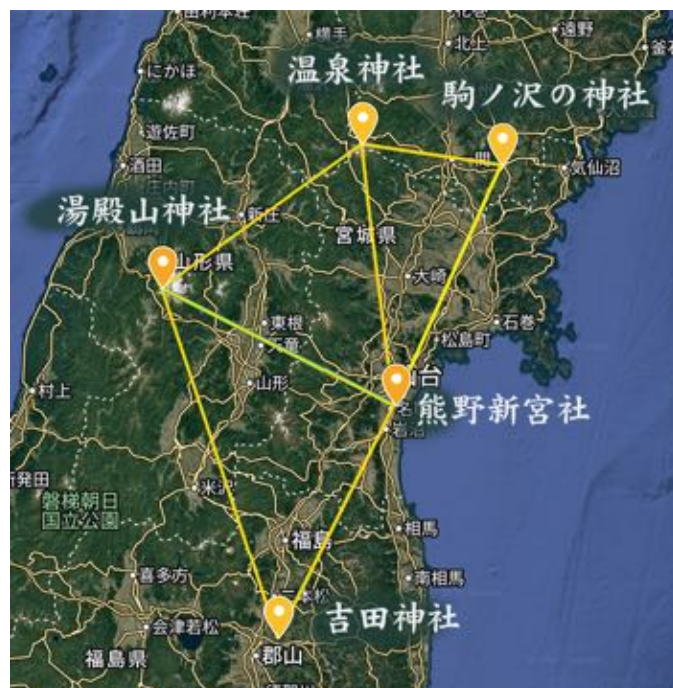
■白山姫神社（下余田）

「昔、京都の法師が経巻を松島瑞巖寺に運ぶ途中、婦人に3つの箱を頼まれました。やがて、下余田界隈で婦人が現れ、「我は白山の化身」と3つのうちの真ん中の箱だけ持って立ち去ったのです。これにちなみ中荷屋敷という地名が生まれました。その箱の中には地蔵尊像があり、これを祀る祠が建てられ白山姫神社と呼ばれました。」

※仙台まほろばの道 白山姫神社とククリヒメの剣 より抜粋

宮城県名取市下余田飯塚503

●湯殿山のご神気を引き込むために同距離に二社を置いたといえる。現在の名取新宮社にも白山菊理姫は御祭神の一柱として祀られているが、こちらがルーツだったのかも。仙台まほろばの道さんの記事で白山信仰は奥州藤原家が信仰していたことを知った。ということは、下余田の熊野三社にもすでに藤原家は関わっていたのだろうか。ちなみに、15年ほど前に福井県勝山市の平泉寺白山神社に参拝したが、泰澄が女神を見た御手洗池（平泉）は本当に神秘的で美しく感じた。



■湯殿山神社ご神体岩←← 89.957km→→ 下余田熊野新宮社→→ 89.957km →→ 駒の沢の神社
→→ 89.957km →→ 温泉神社
→→ 89.957km →→ 吉田神社



■温泉神社

『清和天皇貞観 15 年（873）6 月授出羽国正六位上、温泉神社従五位下。社地は須川岳（栗駒山）の絶頂にあり、四時雪消えず、且つ坂路険悪にして常に参拝便ならざるを以って、其麓の里に遥拝の地を里宮と名付けて、茲に五本の玉串を捧げて拝めり。明治 2 年 10 月 20 日稲荷神社（五串宿）境内に社殿を置き、温泉神社遥拝所と確定し明治 17 年（7 年か）5 月水沢県にて神社改正の際、五串字宿に移し、拝殿を造営し崇め拝めり。』

祭神/大日靈命、少名彦命、日本武命、三戈大明神

岩手県一関市巖美町板川（栗駒山山頂付近）

■駒の沢の神社 詳細不明 岩手県一関市千厩町千厩駒ノ沢 4 1 - 1

■吉田神社 詳細不明 福島県郡山市西田町三町目吉田 2 8 6

●お湯が湧き出す湯殿山と温泉神社。大日如来と大日靈命。これは有りだと思う。

白磐神社奥の院（葉山）



■ 白磐神社（葉山） ←← 72.595km →→ 下余田熊野新宮社 →→ 72.595km →→ 金田八幡神社
→→ 72.595km →→ 松林寺



■白磐神社奥の院

白磐神社（はくばんじんじゃ）。通称：葉山神社。

当神社の創建時期は不明。「葉山」は本来「端山」で、「奥山」に対して里に近い山という意味なので、全国各地に同名の山があり、区別するために「村山葉山」とも通称する。地域や時期によっても違うが、「出羽三山」は江戸時代初期まで「羽黒山」・「月山」・「葉山」を指し、「湯殿山」は「総奥之院」の扱いだったともいう。そういう事情で、古くから「葉山修験」という一派が活動しており、その中心を成していたのが「医王山 金剛日寺 大円院（葉山大円院）」だったという。その神仏混淆の縁起によれば、天地開闢の折、国常立尊が「葉山」山頂に五色の華、即ち妙法蓮華經の5文字が開くのを見て、天下って「葉山地主神」となった。その本地は薬師如来である。大宝2年（702年）、役小角（役行者）の命により、弟子の行玄が開山したとされる。そして、「日本三代実録」貞観12年（870年）の記事に、出羽国の「白磐神」と「須波神」に従五位下の神階を授与したとあり、そのうちの「白磐神」が当神社のこととされている（国史現在社）。その確実な証拠はないが、現在も「葉山」の南側に広く「白岩」という地名が残っており、通説といってよい。中世以降も、当地の領主に篤く庇護されたが、16世紀中頃、ともに「葉山」を「奥之院」としていた大寺「瑞宝山 慈恩寺」が離反したため「葉山修験」は次第に衰退した。それでも「大円院」は新庄藩の祈祷所などとして重用され、最盛期には宿坊19坊、末寺51カ寺があったが、江戸時代中期には宿坊が6坊まで減少、明治時代に入ると修験道が禁止されたこともあって、ますます衰退した。更に、第二次大戦後、寒河江市白岩字畑にあった本堂付近がGHQアメリカ陸軍の演習場の着弾地とされたため、昭和30年に本堂を解体・縮小し現在地（村山市岩野）に移転したという。この間、「白磐神社」の変遷はよくわからないが、「葉山薬師権現」などと呼ばれ、「千座川」の水源の神として、主に「作神」（農業神）として信仰されていたようであり、新庄藩主・戸沢氏により何回か「奥之院」（社殿）建替えがなされた記録がある（文久元年：1861年など）、現在では「葉山」山頂付近に社殿があって、「葉山神社」とも通称されている。現在の祭神は大己貴命と国常立命。

山形県寒河江市大字田代字葉山1192-2。 ※サイト「神が宿るところ」より抜粋

■金田八幡神社

平城天皇の大同2年（西暦807年）坂上田村麻呂が再び奥州に下向し、ここに金神金山彦神を祀った。これが、八幡宮の地主神である。（太田南畝「一話一言」所収、金田八幡記録）。冷泉天応天喜4年（西暦1056年）8月、陸奥守兼鎮守府將軍源頼義が金田城の鬼門鎮護のため勸請したと伝えられ、金田荘の総鎮守として崇敬された。その後寛治（西暦1087年）の頃藤原清衡がこれを再興したと伝えられる。当社の社家は日枝神社と同様に、従五位下清原業隆でその子孫十二代を経て紀伊守祐隆が天授2年（西暦1376年）羽黒派修験道に入り紀伊守宥義と称し、その四世から清浄院と改め代々別当をつとめた。明治10年（西暦1877年）3月村社に列せられた。祭神/応仁天皇

宮城県栗原市金成字館下122

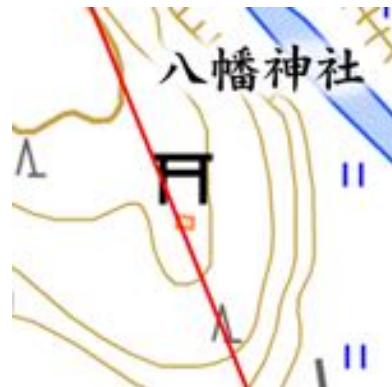
■松林寺 詳細不明 宮城県本吉郡南三陸町戸倉滝浜90

●1087年頃に藤原清衡がこれを再興したとある。藤原氏は高館の熊野三社の祭祀線に大きく関わっている。1087年は後三年の役が終結した年。下余田の熊野新宮社もこの時に勸請されたと充分に考えられる。家衡との戦いのためか、終結後に犠牲者の弔いのためか…。

月 山



■青生神社（美里町） ←← 87.179km →→ 月山神社本宮 →→ 87.179km →→ 下余田熊野新宮社
→→ 87.179km →→ 八幡神社（栗原市）



■月山神社

祭神は、神仏習合により月山神の本地仏は阿弥陀如来であると考えられるようになったが、八幡神の本地仏である阿弥陀如来が、月読命になぞらえられた月山神の本地仏となったのは東北的な特性であると言

え、浄土教の浸透が阿弥陀如来信仰を月山に導いたと思われる。室町時代まで月山の神は八幡大菩薩とされていた。

社伝によれば、崇峻天皇の第3皇子である蜂子皇子が推古天皇元年（593年）に羽黒山を開山し、さらに同年、月山を開山して当社を建立したのだと言う。蜂子皇子は土地の人たちの面倒をよく見て、悩みや苦しみに耳をかたむけたことから「能除仙」と呼ばれるようになったとされる。

しかしながら、史料から考察する限り、開祖である能除仙と蜂子皇子が同一人物であるという根拠は無い。また、磐舟柵が3度目に修理された文武天皇4年（700年）から出羽郡が建てられた和銅元年（708年）の間に越国以北の夷征が行われたが、出羽の蝦夷征討が開始される前に出羽三山へ登ることは出来なかったと思われる。

『新抄格勅符抄』の宝亀4年（773年）10月符では月山神に神封2戸が寄せられているが、これが月山神の史上における初見である。

『日本三代実録』には月山神の記事が度々登場し、神階の陞叙を受けるなどしている。

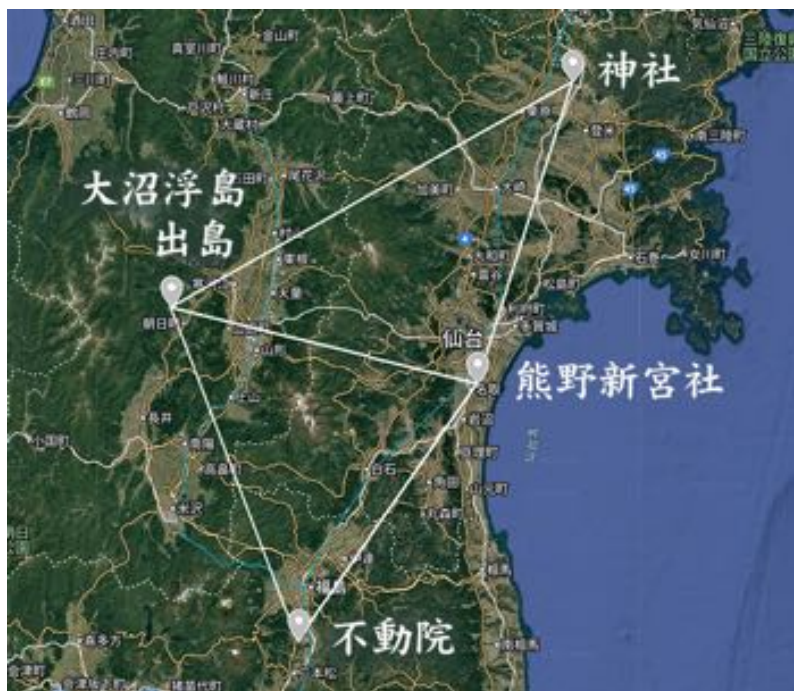
山形県東田川郡庄内町立谷澤字本澤 31

■八幡神社 祭神/菅田別尊 詳細不明 宮城県栗原市松倉西山 18

■青生神社 祭神/大己貴命 詳細不明
宮城県遠田郡美里町青生字薬師堂 18



大沼浮島（出島）



■大沼浮島出島 ← 72.595km → 下余田熊野新宮社 → 72.595km → 不動院
→ 72.595km → 神社



■大沼浮島（役の小角・弁財天）

湖畔にある大沼浮嶋稲荷神社（祭神/宇迦之御魂神）の神池とされ狐の形をしている。沼には大小の葦の島が風や流れに関係なく浮遊し、江戸時代には国の数 32 あり、その動きで吉凶を占っていたとされる。沼は白竜湖とも呼ばれ弁財天が祀られている。大円寺『朝日嶽縁起』（1505 年）によると、朝日岳の麓に御手洗の「大富沼」があると記されている。

白鳳 9 年（681）役の小角が弟子の覚道を連れて出羽路に来た折、大谷川（朝日町大谷）のほとりで梵字が記された板碑が流れくるのを見つけ、川をさかのぼり、60 余りの島が浮遊する神池大沼を見つけた。湖畔に浮島稲荷大明神を祀り、弟子覚道を別当（大行院）とし朝日岳修験が行われた。739 年には行基が訪れ浮島 66 個に国の名前を付けた。建久 4 年（1193）には寒河江荘地頭となった大江広元の進言により源頼朝の祈願所になり、その後も大江家、徳川家、最上家にも祈願所として崇敬された。国指定名勝。山形県西村山郡朝日町大沼

備考/浮島は、現在は数も減り、岸に付き動かないことが多いが、動く時は流れや風に関係なく意志があるかのように動き回り驚く。出雲族東王家の富家の人々は出雲から大和の葛城山東側に移り住んだとされる。役の小角の生誕地は奈良県御所市茅原。まさに葛木山の東に位置する。大沼を「大富沼」、大朝日岳の神を「大富権現（弁財天）」と名付けたのも役の小角だろう。役の小角が天孫族秦氏の稲荷神を祀ることはありえない。なにより伏見稲荷よりも古い歴史になってしまう。730 年に「大沼社を南西の丘に移す」記述があるので、その時に秦族がやってきて主祭神を弁財天（瀬織津姫）から稲荷神に変えたのだと思われる。徐福が連れてきた海童たち秦族は蓬莱島信仰を持つ。自由に動き回る浮島は相当に魅力的だったはず。古い祭祀線はほとんど



が稲荷神社ではなく大沼の鳥居の立つ「弁天島（出島）」（写真）が起点となっている。

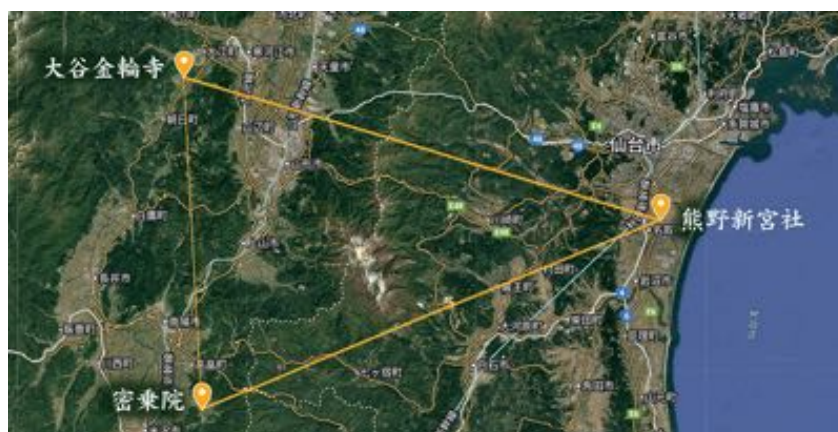
●大沼にも熊野神社はあった。明治に浮嶋稲荷神社に合祀。

■不動院 詳細不明 天台宗 〒960-1241 福島県福島市松川町日向山 6 2

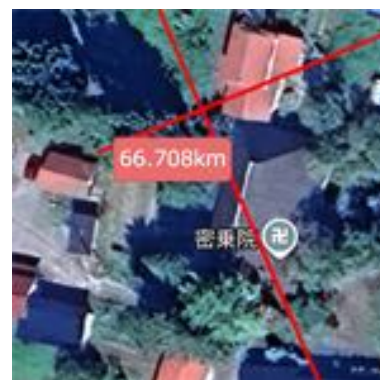
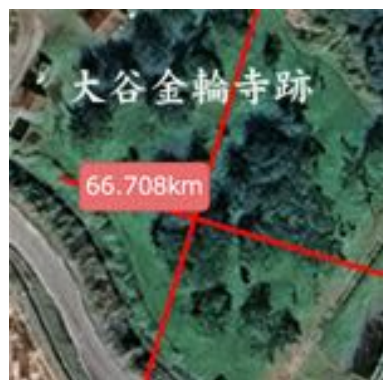
■神社 詳細不明 岩手県一関市花泉町油島仮谷 5 3

●名も無き神社だがとても有名だった。この神社は丘の上のほまれや公園にある。すぐそばにあった温泉旅館の主人が経営難で自殺して残された廃旅館やこの神社が心霊スポットとして注目されているらしい。朽ちた神社は闇の聖地と化してしまったようだ。ただ、温泉が出て、丘の上だから自然聖地にはふさわしい場所といえる。どなた様が祀られていたのか…

大谷金輪寺



■大谷金輪寺跡 ←← 66.708km →→ 下余田熊野新宮社 →→ 66.708km →→ 密乗院



■大谷金輪寺跡

朝日町史「朝日岳信仰」より抜粋

川西町上小松にある真言宗大円寺に『朝日嶽縁起』は朝日岳信仰の内容が文章化されている。朝日嶽三所権現の縁起をのべ、三社が大富・女躰・子守の各権現で、本地仏はそれぞれ弁才天・大日如来・正観音であるとする。文末の古老の伝承はともかく、弘仁年間（810～824）に教旻という僧侶が、朝日山麓の大谷に来往して、朝日岳金輪寺を建立し、周辺には朝日三十三坊と呼ばれる宗教集落が成立したという記録は検討されなければならない。

この縁起を書いた行賢は、大円寺の世代記によると、中興開基から数えて十四代に当たり、永禄二年（1559）12月に没したと記されている。同寺にある他の記録によると、先祖は大谷の金輪寺住僧で、朝日岳三社権現の別当職を勤めていた。ところが永正年中（1504～21）に金輪寺が坊舎も含めて焼失し、再建居住が困難のため、天文年中（1532～55）行賢が上小松村の亀森天神別当の院跡へ移ったという。朝日岳権現の祭礼は、古くは7・8月に行なっていたが、麓大谷の居住を離れたため例年の八月はできなくなり、10年に一度の登山を行い、三社権現の祭礼は八月一日から七日まで亀森山の社中で勤仕している旨を記している。

この文書には「朝日嶽三社大富・女躰・子守権現、従往古堂社無之霊地ニ候」と書いて、別当寺金輪寺はあるものの朝日岳三社は、社殿を持たなかったとしている。

大谷の地が問題になる。朝日町の大谷と考えたいが、多少の問題はあるだろう。現在の白鷹町・長井市・小国町・飯豊町・川西町に大谷の地名を探してみたが、小字にも見当たらないのである。永正年間に消失したと伝える金輪寺と朝日三十坊とされる朝日岳信仰のひとつが大谷であったと考え、もとの大谷集落跡も含めて今後の検討課題としたい。

-大円寺の観音経裏面の書き込み-

朝日先達 坊中 本坊 金輪寺 大圓寺 平圓寺

朝日岳金輪寺のほか、大円寺・平圓寺の2ヶ寺があり、それぞれが先達の坊を支配して一つの宗教集落を形づくっていたように思われる。

●金輪寺跡は、祭祀線を調べて朝日町大谷にあることが判明した。詳しくは「朝日嶽信仰 金輪寺・大圓寺・平圓寺はどこにあったか!？」を参照ください。

■密乗院 詳細不明 山形県東置賜郡高畠町上和田478-3

●密教の真言宗もしくは天台宗だと思われるので古いかも。近くには亀岡文殊堂もある。

大朝日岳



■大朝日岳 ←← 86.573km →→ 下余田熊野新宮社 →→ 86.573km →→ 龍雲院



■大朝日岳（朝日連峰・朝日岳/役の小角・大日如来）

磐梯朝日国立公園の朝日連峰主峰。五所神社縁起書によれば、天武天皇の治世、白鳳 8 年（680）、朝日嶽、岩上嶽（祝瓶山）に役行者が参籠修行し開山したという。『三大実録』には「出羽国の白盤神と須波神に従五位下を授けた」とあり、須波神は朝日岳のことで龍蛇神の諏訪神とされる。大円寺『朝日嶽縁起』（1505 年）によると朝日嶽大富権現は、大富権現・女躰権限・子守権現の三処であり、本地佛は、大富権現は弁財天（初頭神は大山祇神）、女躰権現は大日如来（木花咲耶姫命）、子守権現は正観音で大山祇神の娘溝織姫命であるとする。役の小角が出逢った女神は女



軀権現（大日如来=木花咲耶姫命）。「朝日嶽信仰」は執権北条時頼（1246～56）によって千年封じされたまま現在に至る。山形県西村山郡朝日町。

●三処とは、大朝日岳、中岳、西朝日岳ではないかと思われる。



■曹洞宗 菩提山 龍雲院

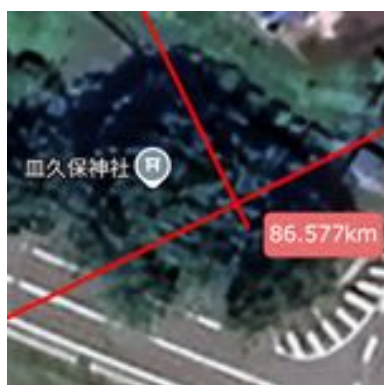
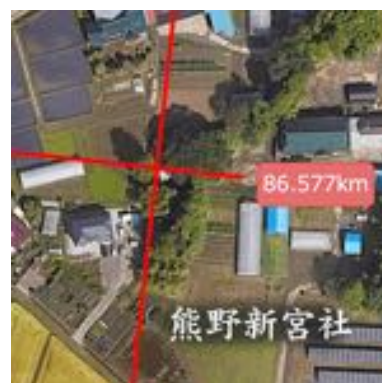
龍雲院は曹洞宗の寺院であり、元和二年(1616 年)に清水大蔵公家臣矢口能登の菩提寺として本寺興源院六世澄嶺舜皎大和尚により開山されました。矢口能登は戦国時代に活躍した武将で、清水大蔵公の家老格である升形楯主でした。戦乱の時代に活躍した矢口能登は、龍雲院の創設後まもなく亡くなり、彼とその妻の位牌は現在も寺に安置されています。

場所/ 山形県新庄市升形 933-1

●龍雲院の本堂とぴったりつながった。これは元和二年(1616 年)に、龍雲院が大朝日岳と下余田の熊野新宮社からご神気を引くために施した祭祀線だと思われる。朝日岳信仰は衰退しても朝日岳の神気は変わらないと考えての祭祀線と考えたい。高館熊野堂に名取熊野神社（新宮社）が遷座したのち 900 年も元社として現存したということになる。その頃には、まだ厚く信仰されていたのではないだろうか。



■香泉寺←← 86.577km→→ 大朝日岳→→ 86.577km →→ 下余田熊野新宮社
→→ 86.577km →→ 皿久保神社



■香泉寺

二本松城主の畠山氏 10 代義国は、相阿智達上人を開山とし、金華山金剛院香泉寺を開基した。義国は天正 8 年(1580 年)8 月 1 日病没、法号「金剛院殿宝積庵其阿弥陀仏」、遺言により本寺に埋葬されたという。畠山氏 10 代義国の墓と位牌があるとされる。境内に県内でも希少な露仏(濡れ仏・天明 2 年(1782 年))で市指定の「銅造阿弥陀如来坐像」を安置。

福島県二本松市若宮一丁目 243 番地

●ここも戦国時代のつながり。円周ラインは本堂の入り口付近なので偶然かもしれない。香泉寺自体の祭祀線を探せばわかるかも知れないが、今回は参考として載せておくことにする。

■皿久保神社 詳細不明 福島県安達郡大玉村大山大橋平

●グーグルのマーカーは円周ラインよりずれているが、下りて確認したらラインのあたりに小さな社殿が見えた。

祝瓶山



■祝瓶山山頂三角点←← 86.577km→→ 下余田熊野新宮社→→ 86.577km →→ 須賀神社



■祝瓶山（いわいがめやま）

祝瓶山は朝日山地の主峰・大朝日岳から南南西に伸びる山稜の上に位置している。標高は1500mにも満たないが、岩陵が発達する極めて峻険な山容を示す。このことから、俗に東北のマッターホルンとも呼ばれる。祝瓶山の北稜部が磐梯朝日国立公園の出羽三山・朝日地域に含まれている。なお、祝瓶山は、地質学的には朝日山地のほかの山と同様に花崗岩を中心とした深成岩からなる山である。



サイト やまがた山さんより拝借

●祝瓶山は朝日岳信仰の祭祀場的な山なことがわかった。詳しくは別頁「道真公の無念を晴らす朝日嶽修験 祝瓶山」をご覧ください。

■須賀神社

知る由もなけれど、康平年間（前九年の役時・1058～1065年）勧請の説あり。（本吉郡誌）。祇園天王宮、或は牛頭天王社と稱し別当大聖寺なり（戦国時代より江戸時代）。明治2年現社号になる。大聖寺は、現

宮司先祖なり。

祭神/建速須佐之男命 宮城県気仙沼市本吉町山谷 63

※宮城県神社庁サイトより抜粋

●ほかにもあったが、真ん中に熊野新宮社が位置する祭祀線は、新宮社の護りとして作られたと考えられる。幸いなことに須賀神社の創建年代が伝わっている。すなわち、下余田の熊野新宮社は 1058～1065 年以降、1123 年の間に建立されたと考えられる。もしかしたら熊野新宮社勧請時に須賀神社も同時に勧請されたのかもしれない。すると、前九年の役が関わってくるのかも…などと妄想を広げてしまう。いずれにせよ、情報はないのだけれど須賀神社と名取老女の関係を探る価値はある。

まとめ

●900 年前の元社ゆえに詳細不明な寺社との祭祀線が多いが、ピンポイントで円周ラインに乗ってくる偶然の確率はそうとう低いので、どれも有りだと信じたい。

特に白磐神社-金田八幡神社は藤原氏の関与がある。また祝瓶山-須賀神社の祭祀線のように中央に熊野新宮社が位置する寺社は重要なので、その寺社そのものの祭祀線も改めて調べる必要がある。次の課題にしようと思う。

(2025 年 10 月 20 日 竜天太陽記)

